

第 5 学年国語科学習指導案

日 時：平成 26 年 11 月 12 日（水）

場 所：5 年 1 組教室

授業者：木村 英器

1．単元名 作品を自分なりにとらえ、朗読しよう

教材名 『大造じいさんとガン』

2．指導の立場

（１）教材観

教材「大造じいさんとガン」は、ガンの頭領「残雪」との間に繰り広げられる生存のための厳しい闘争を通じて、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの人間味あふれる姿が、緊迫した雰囲気の中で生き生きと描かれている作品である。また、場面の転換や物語の山場の部分などに、大造じいさんの行動を写す細かい描写が見られ、秋の空や日の光を中心とした自然描写、さらに、戦う残雪の行動描写の巧みさなどが児童を物語の世界に引き込んでいく。

残雪のもつ知恵や勇気などを本能と知りながらも、本能的行動と決めつけず人間に引き写して、感動をもって対している大造じいさんの人間らしさ、正義感、愛情を、叙述をもとに読み取らせたい。

さらに本単元では、読み取ったことをもとに朗読で表現させたい。朗読をするためには、作品の世界を自分なりにとらえることが必要である。大造じいさんに寄り添って書かれた物語を、大造じいさんの心情の変化、人物像をとらえながら、また、優れた叙述を味わいながら、読み方を工夫して朗読で表現する態度を身に付けさせたい。

（２）研究との関わり

【児童の実態】

- ・叙述に基づいて読み取ったり、深く読み取ったりできる児童が増えつつある。
- ・自分の考えや思いを自分なりの言葉を使って話すことに抵抗がある児童が多いため、交流で考えが深まったり広がったりすることが少ない。
- ・音読に意欲的に取り組める児童が多いが、声の調子や間の取り方などを工夫できる児童は少ない。

研究内容 1

（１）付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する。

付けたい力

- ・会話、心情、行動、情景についての描写を基に、登場人物の相互関係や人物像、内面について深い心情とその変化について読み取り、自分なりの解釈や感動を朗読として表現する力。

単元を貫く言語活動の設定

- ・単元の出口に「大造じいさんとガンの朗読放送」を設定し、とらえた感動を自分なりの朗読で表現する。毎時間のまとめで心に残った場面を選び、その思いが伝わるように工夫して朗読する活動を仕組む。

研究内容 2

（２）考えを広げ、深めるための効果的な交流活動を工夫する。

- ・仲間の考えをヒントにして自分の考えを広めたり深めたりして、全体で考えを練り上げられるようにする。
- ・場面ごとの読み取りではなく、物語全体を俯瞰した上で、視点を明確にして、登場人物の心情や場面の描写を読み取れるようにする。
- ・心に残った場面について朗読のペア交流をし、仲間の朗読表現の意図や思いを伝えるための工夫を知ること、自分の考えを広められるようにする。

【めざす児童の姿】

- ・行動描写や会話などの叙述を基に、大造じいさんの心情と心情の変化を読み取ることができる。
- ・自分の考えをもって積極的に全体交流し、仲間の意見を基にさらに考えを練り上げることができる。
- ・情景描写が心情を表していることを理解し、場面の様子と共に心情を読み取ることができる。
- ・自分の思いや考えが伝わるように、速さ、声の大きさ、強弱、間の取り方を工夫して、朗読ができる。

3. 本時のねらい

残雪は尊敬できる相手であるというように大きく見方が変わった、大造じいさんの心情を読み取ることを通して、工夫して朗読で表現することができる。

4. 本時の展開 (6 / 9)

	学習活動	個に応じた指導・援助 交流の形態 評価規準
つかむ	1. 課題を確認する。 大造じいさんの残雪に対する気持ちが、どのように変わったのか読み取り、それが伝わるように読み方を工夫し、朗読で表そう。	A: 前半の場面の叙述とクライマックスの場面を比べて心情を読み取っている児童に対して
考えをもつ	2. 大造じいさんの残雪に対する気持ちがどのように変わったかを読み取る。(一人読み) 3. 読み取ったことを交流する。(全体交流) 「なんと思ったのか再び～」 ・単なる獲物という見方から、残雪に対する気持ちが変わったから、撃てなくなった。 「頭領らしい」「堂々たる態度」「頭領としてのいげん」 ・今までは、鳥だからとバカにしているような所があったし絶対に捕まえたいという気持ちが強かったけれど、あまりに立派な姿に、今、捕らえてはいけないという気になった。 ・今の残雪は立派だ。傷ついている今、戦うことは卑怯だ。 「強く心を打たれて」「ただの鳥に対してしているような気がしない」 ・ライバルとしてその姿に感動した。 ・狩人と鳥という関係ではない思いを残雪にもった。	・残雪のことをどのように思っているのか、具体的な言葉で考えさせる。 ・残雪の表現の仕方の違いを比較させ、心情を考えさせる。 B: 大造じいさんの心情が読み取れない児童や、一つの場面だけに目を向けている児童に対して ・残雪を表現している言葉の違いを提示して、心情の変化を考えさせる。
深める	【深めの発問】 「たかが鳥」から「ただの鳥に対してしているような気がしない」と変わった大造じいさんは、どんな気持ちになったのだろう。 ・今までは、狩人と鳥の関係で、単なる獲物としてしか見ていなかったし、「鳥だから」とバカにしているような所もあったが、今は、残雪のことをまるで人間のライバルのように思い、その姿に感動し、尊敬できるような存在になっている。	【深めの発問の意図】 残雪を言い表す表現の違いに目を向け、残雪に対する心情が大きく変化していることを読み取らせる。
まとめる	4. 大造じいさんが手を伸ばした時の残雪の様子が描かれている部分に朗読記号を付け、ペアで朗読の工夫を交流する。 全体的には、しっとりとした感じで朗読します。特に、「強く心を打たれて」の所では、大造じいさんが心から感動している気持ちが表れるように、ゆっくりと力強く朗読します。また、「ただの鳥に・・・」の所では、単なる獲物から尊敬できる相手であると、残雪に対する気持ちが変わっていることを表せるように、ゆっくりと言葉を区切り一言一言大切にしながら朗読します。	ペア交流 大造じいさんの心情が伝わるように朗読を工夫し、互いに工夫を伝え合うことで、さらなる朗読の工夫につなげる。 残雪の様子を表す表現に着目して、大造じいさんの心情の大きな変化をとらえ、工夫して朗読に表している。【ノート・発言・朗読】
	5. まとめの朗読を発表する。	

第5学年国語科学習指導案

日 時：平成 26 年 11 月 12 日（水）

場 所：5 年 2 組教室

授業者：宮嶋 淳子

1．単元名 作品を自分なりにとらえ、朗読しよう

教材名 『大造じいさんとガン』

2．指導の立場

（1）教材観

教材「大造じいさんとガン」は、ガンの頭領「残雪」との間に繰り広げられる生存のための厳しい闘争を通じて、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの人間味あふれる姿が、緊迫した雰囲気の中で生き生きと描かれている作品である。また、場面の転換や物語の山場の部分などに、大造じいさんの行動を写す細かい描写が見られ、秋の空や日の光を中心とした自然描写、さらに、戦う残雪の行動描写の巧みさなどが児童を物語の世界に引き込んでいく。

残雪のもつ知恵や勇気などを本能と知りながらも、本能的行動と決めつけず人間に引き写して、感動をもって対している大造じいさんの人間らしさ、正義感、愛情を、叙述をもとに読み取らせたい。

さらに本単元では、読み取ったことをもとに朗読で表現させたい。朗読をするためには、作品の世界を自分なりにとらえることが必要である。大造じいさんに寄り添って書かれた物語を、大造じいさんの心情の変化、人物像をとらえながら、また、優れた叙述を味わいながら、読み方を工夫して朗読で表現する態度を身に付けさせたい。

（2）研究との関わり

【児童の実態】

- ・前単元までの学習で、物語全体をとらえて人物像や登場人物の相互関係や情景を想像することはできるようになってきているが、叙述に基づいた読み取りは浅い。
- ・音読に意欲的に取り組める児童が多いが、声の調子や間の取り方などを工夫できる児童は少ない。また、表現活動に消極的な児童も3割程度いる。
- ・自分の考えを話したり仲間の意見を聞き取ったりすることに抵抗がある児童が多いため、交流で考えが広がったり深まったりすることが少ない。

研究内容 1

（1）付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する。

付けたい力

- ・会話、心情、行動、情景についての描写を基に、登場人物の相互関係や人物像、内面について深い心情とその変化について読み取り、自分なりの解釈や感動を朗読として表現する力。

単元を貫く言語活動の設定

- ・単元の出口に「大造じいさんとガンの朗読放送」を設定し、とらえた感動を自分なりの朗読で表現する。毎時間のまとめで心に残った場面を選び、その思いが伝わるように工夫して朗読する活動を仕組む。

研究内容 2

（2）考えを広め、深めるための効果的な交流活動を工夫する。

- ・仲間の考えをヒントにして自分の考えを広めたり深めたりして、全体で考えを練り上げられるようにする。
- ・場面ごとの読み取りではなく、視点を情景描写にしばって、そこから登場人物の心情を読み取れるようにする。
- ・読み取った情景描写を工夫して表現する朗読のペア交流をし、仲間の朗読表現の意図や思いを伝えるための工夫を知ること、自分の考えを広められるようにする。

【めざす児童の姿】

- ・行動描写や会話などの叙述を基に、大造じいさんの心情と心情の変化を読み取ることができる。
- ・自分の考えをもって積極的に全体交流し、仲間の意見を基にさらに考えを練り上げることができる。
- ・情景描写が心情を表していることを理解し、場面の様子と共に心情を読み取ることができる。
- ・自分の思いや考えが伝わるように、速さ、声の大きさ、強弱、間の取り方を工夫して、朗読ができる。

3. 本時のねらい

情景描写に着目することを通して、そこから人物の心情を読み取り、情景描写からも人物の心情が読み取れることを理解し、朗読に表現することができる。

4. 本時の展開 (7 / 9)

	学習活動	個に応じた指導・援助 交流の形態 評価規準
つかむ	1. 物語全体から情景描写を抽出する。 2. 課題を確認する。 情景描写から、大造じいさんの心情を読み取り、それが伝わるように読み方を工夫し、朗読で表そう。	A：情景描写に着目して、人物の心情とつなげて自分なりに読み取っている児童に対して ・前後の人物の心情とつなげて考えさせる。 ・色や、情景全体から受けるイメージと人物の心情をつなげて考えさせる。
考えをもつ	3. 前後の文章とのつながりや色などを根拠に、人物の心情を想像する。(一人読み) 4. 情景描写から読み取れる心情や効果を交流する。(全体交流) 「秋の日が、美しくかがやいていました。」 ・作戦が成功したから、またうまくいけようという期待とやる気と意気込みを表している。 ・秋の赤い感じがやる気と温かさを想像させる。 「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」 ・前の「戦闘開始だ」とつなげて、やる気に満ちている。 ・後の「わくわく」とつなげて、期待している 「らんまんとさいたスモモの花・・・」 ・晴れやかな気持ち ・白からさわやかで優しい感じがする。 ・気持ちを言葉で書くより迫力があるし、想像がふくらむ。 【深めの発問】 情景描写をどう読むと、大造じいさんの心情を表現することができるだろう。	B：情景描写と人物の心情がつながって読み取れない児童に対して ・情景描写の前後にある、人物の心情が読み取れる言葉を提示して、つなげて考えさせる。 ・挿絵を提示して視覚的に考えさせる。
深める	「らんまんとさいたスモモの花・・・」の所では、大造じいさんの晴れ晴れとした「よかったな」と思っている気持ちが表れるように、明るい声でゆっくりと朗読します。『はらはらと散りました』では、なんだか少し寂しいなという気持ちが表現できるように、声のトーンを落として最後消えていくような感じに朗読します。	【深めの発問の意図】 情景描写の効果を理解し 生き生きと表現されている 作品のよさに気付くように する。
まとめる	5. 情景描写で大造じいさんの心情が描かれている部分を選び、朗読記号を付け、ペアで朗読の工夫を交流する。 『らんまんとさいたスモモの花が・・・』の所では、大造じいさんの晴れ晴れとした「よかったな」と思っている気持ちが表れるように、明るい声でゆっくりと朗読します。『はらはらと散りました』では、なんだか少し寂しいなという気持ちが表現できるように、声のトーンを落として最後消えていくような感じに朗読します。	ペア交流 情景描写から読み取った大造じいさんの心情も交流し、お互いに心情が伝わるように朗読を交流し、さらなる朗読の工夫につなげる。 情景描写を手がかりにして、豊かに人物の心情を想像し、想像したことが伝わるように工夫して朗読している。【ノート・発言・朗読】
	6. まとめの朗読を発表する。	

単元指導計画

【百年後のふるさとを守る】

自分の経験や考え方と照らし合わせて、描かれている人物や出来事、筆者のものの見方・考え方についての感想を持つことができる。

<言葉見つけの視点>

- ・会話や心情表現
- ・行動描写
- ・心内語

<読み取りの技>

- ・自分と比べる
- ・場面をつないで
- ・言葉の意味から

【大造じいさんとガン】

自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をするとともに、情景描写などの優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

【読(1)ア・エ】

- 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができる。 【書(1)オ】

- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。 【伝(1)イ・オ】

<言葉見つけの視点>

- ・会話や心情表現
- ・行動描写 ・情景描写 ・心内語
- 読み取りの技
- ・場面をつないで
- ・言葉と言葉をつなげて
- ・言葉の意味から
- ・人物像とつなげて

【わらぐつの中の神様】

登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめるとともに、それを発表し合い、広げたり深めたりすることができる。

<言葉見つけの視点>

- ・会話や心情表現
- ・行動描写 ・色彩表現
- ・心内語

<読み取りの技>

- ・場面をつないで
- ・言葉の意味から
- ・人物像とつなげて

次	時	ねらい	学習活動	着目する語句、表現	指導の手立て 評価規準
1次(見通しをもつ過程)	1 2	・範読を聞いて感想をもち、単元を通した学習のめあてをもつことができる。 ・感想交流を通して、作品の構成と内容の大体をつかむことができる。	1. 単元名とリード文から、学習の見通しをもつ。 物語の構成を整理して、感想を話し合おう。 2. 範読を聞き感想を交流する。 3. 構成と内容を整理する。 4. 朗読の意味を確認する。 5. これからの学習の見通しをもち、単元を通した学習課題を確認する。 「大造じいさんとガン」の世界を自分なりにとらえ、それを朗読で表現して全校に伝えよう。	☐ 朗読 ☐ 情景	・挿絵や写真を準備して、狩人の暮らしぶりが想像できるようにする。 ・大造じいさんと残雪の4年間の関係が大造じいさんの気持ちに寄り添って書かれていることを理解させる。話を読んで思ったことを感想に書いている。【ノート】
2次(読み方を習得する過程)	3 4	・物語全文から大造じいさんの行動や会話や残雪への接し方などに着目することを通して、人物像を読み取り、それを朗	1. 課題を確認する。 大造じいさんはどんな人かを読み取り、それが伝わるように読み方を工夫し、朗読で表そう。 2. 全文を音読する。	☐ 72才というのに ~ ☐ なかなか話し上手の人 ☐ 血管のふくれたがんじょうな手 ☐ 今年こそは ☐ 3年の計略 ☐ その翌日、昨日と同じ時刻に	・大造じいさんの様子や行動、心情を表す表現に着目し、人柄を読み取ると共に、物語の筋をとらえさせる。

3 4	読に表現することができる。	3．大造じいさんの様子や行動、心情を表す表現に着目して読む。（一人読み） 4．大造じいさんの人柄について交流する。（全体交流） 【深めの発問】 何年もかけて残雪を捕まえようとした大造じいさんは、どんな人だろう。 5．大造じいさんの人柄が分かる本文に朗読記号を付け朗読する。 「その翌日、昨日と同じ時刻に」という言葉から、几帳面で狩りにとても真剣に向かっている人だと思っし、自分の作戦がうまくいくと思っていることが伝わるように、どっしりとした声で、ゆっくりと朗読します。	☐ 夏のうちから ☐ 長年の経験 ☐ 再びじゅうを下ろして ☐ おれたちは ☐ いつまでも～見守って	様子や行動、心情を表す表現に着目して人柄をとらえ朗読に表している。【ノート・発言・朗読】
5	・1場面と4場面に着目して、大造じいさんの心情の変化をとらえ、朗読に表現することができる。	1．1，4場面を音読する。 大造じいさんの残雪に対する気持ち、はじめと終わりでどう変わったのか読み取り、それが伝わるように読み方を工夫し、朗読で表そう。 2．大造じいさんの残雪に対する気持ちが分かる表現を1，4場面から抜き出し比較する。（一人読み） 3．比較して変化を交流する。（全体交流） 【深めの発問】 「おれたち」と最後に呼びかけたところから大造じいさんのどんな気持ちが分かりますか。 4．残雪に呼びかける大造じいさんの言葉に朗読記号を付け、朗読する。 はじめは、「たかが鳥」と言っていたけれど、「おうい、ガンの英雄よ～」の所で、残雪のことを尊敬できるライバルのように気持ちが変わったので、仲間に呼びかけるように明るい声で呼びかけたいし、「おれたちは、また堂々と～」は戦線布告しているみたいに、力強く間をとって読みます。	☐ なかなかりょうなやつ ☐ いまいましく ☐ たかが鳥 ☐ ガンの英雄 ☐ えらぶつ ☐ おれたち	・2つの場面を比較して、大造じいさんの気持ちが大きく変化していることに気付けるようにする。 「いまいましい」と「ガンの英雄」に着目してはじめと終わりの心情の変化をとらえて朗読に表している。【ノート・発言・朗読】

6 (本時 五年一組)	・残雪は尊敬できる相手であるというように大きく見方が変わった、大造じいさんの心情を読み取るを通して、工夫して朗読で表現することができる。	1. 課題を確認する。 大造じいさんの残雪に対する気持ち、どのように変わったのか読み取り、それが伝わるように読み方を工夫し、朗読で表そう。 2. 大造じいさんの残雪に対する気持ちがどのように変わったのかを読み取る。(一人読み) 3. 読み取ったことを交流する。(全体交流) 【深めの発問】 「たかが鳥」から「ただの鳥に対してのような気がしない」と変わった大造じいさんは、どんな気持ちになったのだろう。 4. 大造じいさんが手を伸ばした時の残雪の様子が描かれている部分に朗読記号を付け、朗読する。 全体的には、しっとりとした感じで朗読します。特に「強く心を打たれて」の所では、大造じいさんが心から感動している気持ちが表れるように、ゆっくりと力強く朗読します。また、「ただの鳥に・・・」の所では、単なる獲物から尊敬できる相手であると、残雪に対する気持ちが変わっていることを表せるように、ゆっくりと言葉を句切り一言一言大切にしながら朗読します。	□なんと思っただか ～ □頭領らしい □堂々たる態度 □じたばたさわぎ ませんでした □頭領としてのいげん □強く心を打たれて □ただの鳥に対してのような気がしない	・敵である残雪を撃たなかった理由を考えさせることで、残雪の姿に感動した大造じいさんの心情がとらえられるようにする。 残雪の様子を表す表現に着目して、大造じいさんの心情の大きな変化をとらえ朗読に表している。 【ノート・発言・朗読】
7 (本時 五年一組)	・情景描写に着目することを通して、そこから人物の心情を読み取り、情景描写からも人物の心情が読み取れることを理解し、朗読に表現することができる。	1. 物語全体から情景描写を抽出する。 2. 課題を確認する。 情景描写から、大造じいさんの心情を読み取り、それが伝わるように読み方を工夫し、朗読で表そう。 3. 前後の文章とのつながりや色などを根拠に、人物の心情を想像する。(一人読み) 4. 情景描写から読み取れる心情や効果を交流する。(全体交流) 【深めの発問】 情景描写をどう読むと、大造じいさんの心情を表現することができるだろう。	□秋の日が、美しくかがやいていました □あかつきの光が小屋の中にすがすがしく流れこんできました □青くすんだ空 □東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました □白い羽毛があかつきの空に光って散りました	・情景描写と人物の心情をつなげて読むと、人物の心情をより深く読み取ることができることに気付かせる。

2次	7		5. 情景描写で大造じいさんの心情が描かれている部分を選び、朗読記号を付け、朗読する。 『らんまんとさいたスモモの花が～』の所では、大造じいさんの晴れ晴れとした「よかったな」と思っている気持ちが表れるように、明るい声でゆっくりと朗読します。『はらはらと散りました』では、なんだか少し寂しいなという気持ちが表現できるように、声のトーンを落として最後消えていくような感じに朗読します。	□羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散りました □らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました	情景描写を手がかりにして豊かに人物の心情を想像し、想像したことが伝わるように工夫して朗読している。【ノート・発言・朗読】
3次 (読み方を活用して読む過程)	8 9	・全校に朗読放送ができるように分担し、朗読の仕方を工夫することができる。 ・速さ、声の大きさ、強弱、声の高さ、間の取り方、声の調子などに気を付けることを通して、自分の感じたことが伝わるように、朗読することができる。	1. 課題を確認する。 考えたことや感じたことが伝わるように朗読しよう。 2. どこを、どのように読みたいか、自分が感じたことを表すための朗読の仕方を考える。 3. 朗読の練習をする。 4. グループで、朗読を聞き合う。 5. 友だちからアドバイスを受けたことを生かして、朗読の仕方をさらに工夫する。 6. 朗読を録音する。		・朗読を聞き合い助言し合うことで、よりよい考え方や表現の仕方を知ることができるようにする。 ・どんな感じを表すために読み方を工夫するのか伝えてから朗読するようにする。 自分の思いが伝わるように、読む速さや声の調子などに気を付けて朗読している。【朗読】